助産師さんも一緒に！
自発的な学習につなげる 胎児超音波研修

REPORT

関西医科大学 医学部 産科学・婦人科学講座

開催概要

妊婦と接する機会の多い助産師にとって、胎児の成長を確認することのできる超音波検査は、母親とコミュニケーションを深めることができる重要なツールです。

職種に関わらず胎児超音波に触れて、自発的な学習へ繋げてほしいという思いをこめて、助産師、初期研修医、医学生を対象に胎児超音波研修会を実施しました。

本研修では近畿産科婦人科学会が YouTube で公開している映像教材と、検査室の超音波診断装置と妊娠中期の胎児超音波診断シミュレータ※1 を使用しました。参加者には事前に映像教材を視聴してもらい、研修でその知識と手技を融合させました。

※1 胎児超音波診断ファントム　SPACE FAN-ST

指導者の想い

神谷 亮雄
関西医科大学 医学部
産科学・婦人科学講座

持ち運びが容易で「いつでも、どこでも」実臨床で使用している超音波診断装置に対応できるシミュレータや場所を選ばずに視聴ができるオンライン映像教材は、なかなか病棟から離れることのできない産科医にとって非常に有用です。

研修では、受講者にあらかじめ視聴してもらった映像教材をモニターに投影しつつ、参加者全員が理想的な画像と比較しながら学習できるよう進めました。そして、計測するだけではなく、胎児計測パラメータ（BPD・AC・FL）の根拠や実際の解剖、超音波の特性や診断装置の扱いに関する知識も大切ですので、これらの理解を促しながら進行しました。

超音波診断装置の進化やタスクシフトにより、近い将来、助産師や超音波技師が中心となって超音波診断装置を活用する時代がくるかもしれません。この研修が、超音波診断の垣根を低くするきっかけとなり、自発的なトレーニングに繋がることを願っています。

参加者の声

- プローブ走査は少しずれるだけで見え方が大きく変わりました。安定した微調整ができるようにシミュレータと動画を使って自己学習に励みたいと思います。（助産師 6 年目）
- 事前に学習した YouTube 動画の知識と研修で指導いただいたことが頭で繋がり、理解が深まりました。（研修医 2 年目）
- 胎児模型でプローブを当てる角度や解剖を確認することで胎児の向きをイメージすることができた。
（助産師 5 年目）

☞ 探触子（位置・角度）の把握
☞ いつでもどこでも学習（予習 ▶ 復習）

◀ 映像教材
計測編 / スクリーニング編

監修：近畿日本産婦人科学会 / 近畿産婦人科実習セミナー（POP-K）実行委員会
制作：大阪大学大学院医学系研究科 産科学婦人科学教室

KYOTO KAGAKU